

ドキュメント

ボクたちの 熱い、 2日間。

中国ろうきん杯
学童軟式野球
選手権大会
決勝大会

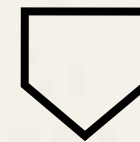
2011年11月12日(土)・13日(日)、
中国5県の各地区予選を勝ち抜いてきた8チームが集い、
第8回中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会を開催しました。
マツダZoom-Zoomスタジアム広島を
メイン会場に戦った
決勝大会の熱い2日間をレポートします。



中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会：
「毎日ひたむきに頑張る子どもたちの夢を応援したい」と願う中国ろうきんの社会貢献活動の一環として、2004年から開催。
中国地区軟式野球連盟と中国ろうきんの共催により、2011年、第8回を迎えた。



秋晴れのもと、憧れのマツダZoom-Zoomスタジアム広島・
東広島アクアスタジアムで開催された決勝大会。中国5県の
約700チームの激戦を勝ち抜いてきた8チームは、早朝に
集合、または前日から広島入りして、マツダスタジアムでの
開会式に集いました。人々の絆が再認識された今年、チーム
ワークの大切さや感謝の気持ちを感じながら、練習の成果を発
揮し、実力をぶつけ合う2日間が始まります。



はじまりの時。

暑い夏の地区予選を勝ち抜いてきた代表チーム。
決勝大会への緊張と期待に胸が高鳴ります。

ろうきん杯を通じて たくさんの経験をしてほしい

プロ野球と同じ球場に立って誇らしさや緊張感
を胸に、選手たちが入場。ろうきん杯を応援する方々
から励ましの言葉もらい、広島県代表・温品ヤン
グウルフクラブのキャプテン・瀬尾寛人くんが宣誓。
決勝戦でも数々のドラマが生まれそうです。



入場行進



選手宣誓



開会式



マツダスタジアムでできて
おもしろかったし準優勝で
きたので良かったです。

彦崎野球入部13少年団キャプテン
6年 岡泰生

ボクたちの
熱い
2日間。



果敢に塁を狙う走者。
初回から気迫の滑り込みも!

この試合ですべての力を出
しきれたのでくじけなない。

温品ヤングウルフクラブキャプテン
6年 瀬尾寛人

試合開始。

各県を代表するチーム同士、実力は互角。
展開の早い白熱プレーの連続に目が離せません!



一心不乱に試合に臨む姿は 観る人の心を熱くさせました

1試合目からレベルの高い戦いが繰り広げられた決勝大会。ピッチャーの球は、100km/hを超えることも。どのチームが優勝してもおかしくない、実力伯仲の熱戦が続きました。



ろうきん職員も コーチをしています!

ろうきん職員も、野球チームのお手伝いをはじめ、地域でさまざまな活動をしています。



野球を通じて
心身共に
大きくなってほしい。



荒木野球スポーツ少年団
小田川 浩之コーチ
(44歳)

中国ろうきん松江支店勤務
試合に勝つことと同時に、保護者や地域の人たちの支援で野球ができていること、相手チームがいるから対戦できることに感謝する気持ちの大切さも伝えています。

子どもたちの一生懸命さが 初心を思い出させてくれます

子どもたちと監督のつなぎ役となるコーチ。戦略を練る監督の思いを伝え、時には厳しく時には優しく選手に声をかけて、技術とマインド両面からサポートします。自らも一生懸命取り組むことで子どもたちに寄り添い、成長を見守る頼もしい存在です。

中山フェニックス
少年野球クラブ

山本 利英コーチ
(45歳)

中国ろうきん呉支店勤務
野球技術だけでなく、自分で考える力を養わせることも意識しています。我が子のように、チームの成長をひしひしと感じながら、日々の活動に励んでいます。

指導者、保護者、
みんなの協力も
感じてほしい。



中山フェニックス少年野球クラブは、残念ながら決勝大会に出場することはできませんでしたが、ボールボーイとして参加しました。「来年こそは!」という思いを選手は感じたはずと山本コーチは語っていました。

ボクたちの 2日間。11.12

グラウンド内外で2日間、元気に熱い姿を見せてくれた選手たち。大会1日目は、広島県代表・温品ヤングウルフクラブに密着しました。早朝の集合から試合までの状況をレポートします。

① am6:45 早朝に集合。マツダスタジアムに、いざ出発!



ユニフォーム姿で続々集まる選手たち。早朝でも緊張で目はパッチリ!

① am7:30 まずは準備体操から始めるよ!



イテテ...でも体が温まってきたよ

体を目覚めさせるためにアップ開始。いつもの動作に心の緊張も少しほぐれてきます。

① am8:30 監督主将会議



競技運営や今回の試合に関するルール等の重要事項はこの会議で確認。

① am9:00 ブルペンでアップ



よし、決まり始めたぞ!

今日はいけそう! 第1試合だからしっかり調整。ボールがビシッとミットに収まる音に好調を確信!

① am10:20 第1試合、開始



初回から積極的な動きでゲームをリード。得点を重ねて準決勝進出!

ボクたちの 2日間。11.13

いよいよ決戦を迎え、ここまで勝ち進んだ選手たちの緊張も最高潮。2日目の準決勝から決勝戦まで、勝利チームと惜しくも優勝を逃したチーム、それぞれの様子を紹介します。

① am9:10 準決勝第1試合。甲乙つけがたい戦い!



温品ヤングウルフクラブは、次第に押され気味になる展開に監督が激を飛ばすも、得点できない難局。果敢に攻めるけど...

① am10:30 惜しくも敗退。ミーティングで涙...



このメンバーで試合ができてよかった...

互角に相手と競り合った末、温品ヤングウルフクラブは第3位に。監督の「よくがんばった! ありがとう!」の言葉に、こらえていた涙がこぼれます。

まめ知識 《学童野球、ここが違う》

学童野球ならではの競技ルールといえるのが、7回戦ゲームの制限時間制。決められた試合時間を経過すると新しい回に入らず、そこまでの得点で勝敗を決めます。制限時間は大会ごとに決められます(今大会は80分)。また、ピッチャーは1日1試合しか投球できないので、準決勝～決勝が同日の場合、各試合別々のピッチャーが登板します。

① pm1:30 やった! 優勝決定!!



最後のアウトを取った瞬間、優勝が決定! 監督やコーチ、仲間に駆け寄る選手たち。応援席からも大歓声!

① pm2:30 優勝の喜びを胸に帰路へ



荷物と優勝杯の重みを心地よく感じながら帰路へ。6年生には小学校時代の忘れられない思い出になりました。





みんなの声か
ぼくたちの力になりました

「打てよ、勝てよ!」と観客席からのエールや応援歌に包まれるスタジアム。決勝大会とあって、各試合とも熱の入った歓声が途切れません。

応援席も燃えた!

保護者の皆さんは選手にとって一番の応援団。活動に関わる多方面のサポートでチームを支えています。

荒木野球スポーツ少年団キャプテン
6年小田川智哉



観客席には先輩のプレーを見ながら学ぶチームメイトたちの姿も。自分も強くなってあの場所に立ちたい...野球への夢や意欲が一層高まります。



閉会式



優勝旗授与

優勝チームの声。

高橋 翔くん(6年)
決勝戦2打席目のタイムリーヒットが一番の思い出。打撃力もあるし、守備力もあるととてもいいチームです。

山根 光貴くん(6年)
最後の大会で優勝できてよかった。今年最強のチームができたので来年も最強チームを作ってほしいです。

橋本 典之くん(6年)
決勝戦の最後でアウトを取って試合終了になったときが一番うれしかった。中学でも野球で頑張ります。

福間 健興くん(6年)
ヒットが打ててとてもうれしいし、ライトでもナイスプレーができたと思うので、最高の試合でした。

伊藤 一樹くん(6年)
決勝の2回裏でヒットが打ててうれしかったです。守備も"思いっきりプレー"で頑張りました。

この頃のマウンドスタジアムで試合が出来て良かったです。

安佐クラブキャプテン 6年杉山翔



荒木野球スポーツ少年団

優勝した荒木野球スポーツ少年団。出雲大社のある島根県大社町で、6年生から1年生までの32名が毎週土日・祝日に練習しています。

